



平成24年度

# よろず健康相談事業報告

よろず健康相談事業では、福島第一原子力発電所事故により仮設住宅等へ避難している飯館村、双葉郡町村及び南相馬市住民を対象に、主に集団検診に併せて個別健康相談を実施しています。

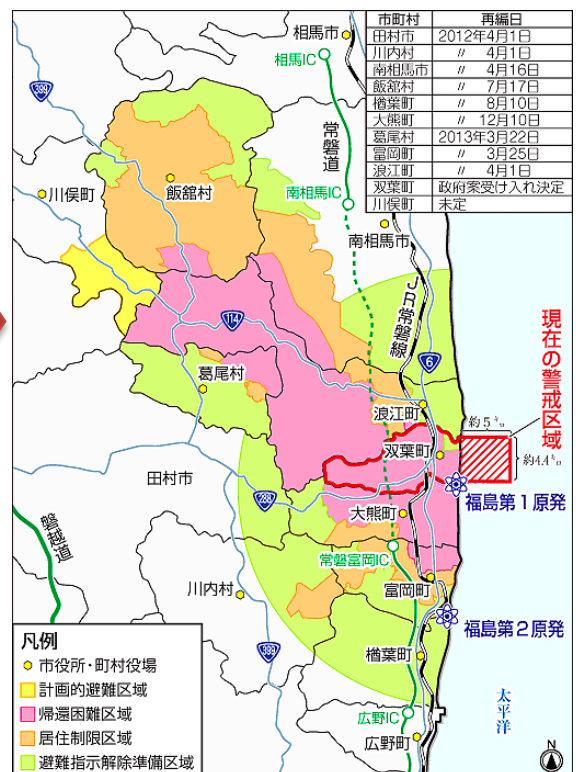
これまでの実績は、・実施回数70回（南相馬こころ2回、浪江放射線健康手帳5回を含む）・相談件数968件・全国からの相談対応者数393名（のべ人数。）



## 実施市町村

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、福島第一原子力発電所の事故が起き、放射能漏れが深刻であったことから、近隣住民は避難を余儀なくされました。避難生活は長期にわたっており、時間の経過と共に問題も形を変え、重く住民にのしかかっています。

### 〈福島県全図〉

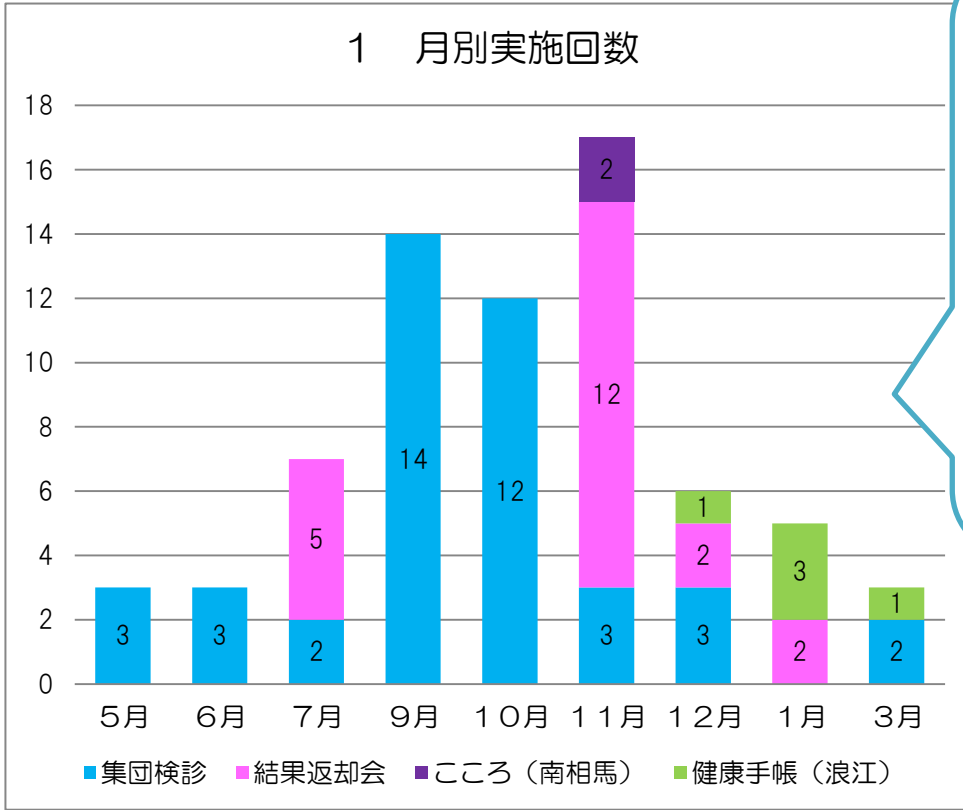


平成25年4月10日現在。（福島民友より）



# 実施回数

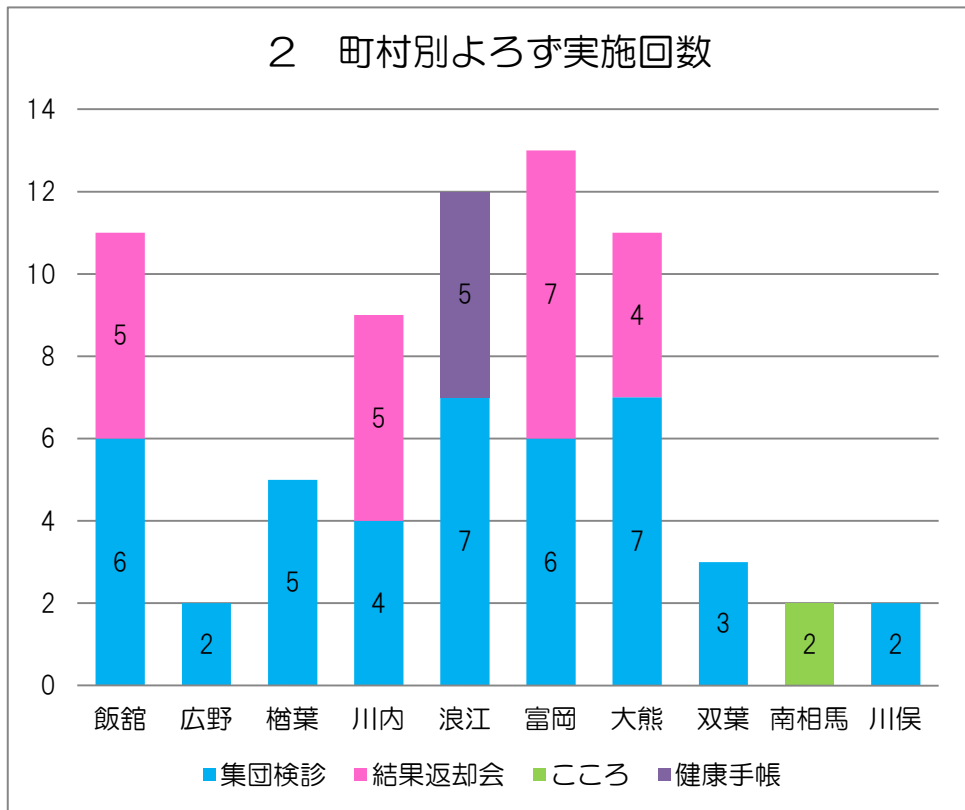
よろず健康相談の1月別相談件数、2町村別よろず実施回数は以下の通りです。



- 集団検診 42回
- 結果返却会 21回
- 南相馬こころの健康度/生活習慣調査 2回
- 浪江町放射線健康手帳説明会 5回

**合計70回実施**

今年度は葛尾村、田村市での実施なし。

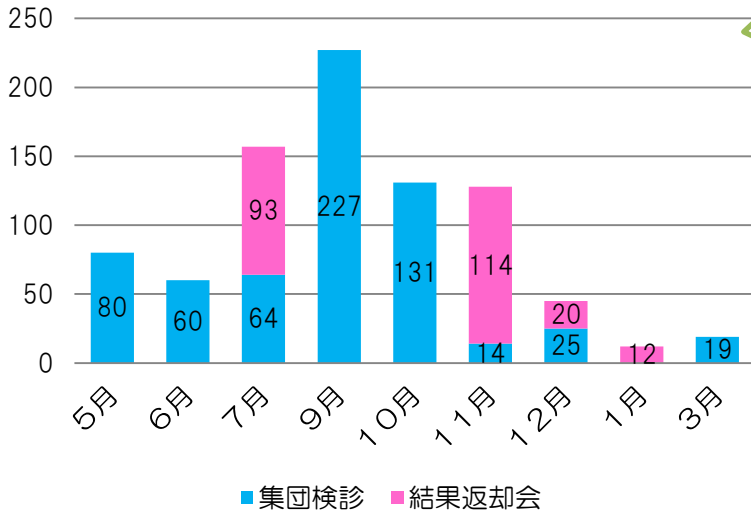




# 月別相談件数

月別相談件数と割合は以下の通りです。

### 月別相談件数



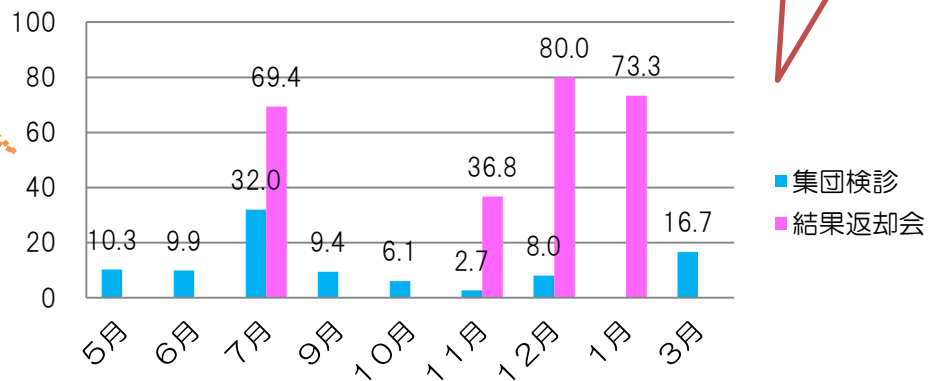
この他に、

- ・こころの健康度/生活習慣調査 2名参加/2回
- ・浪江町放射線健康手帳説明会 107名参加/5回  
があります。

集団検診に比べ、結果返却会の方が相談に来られる方の割合が多いことが分かります。

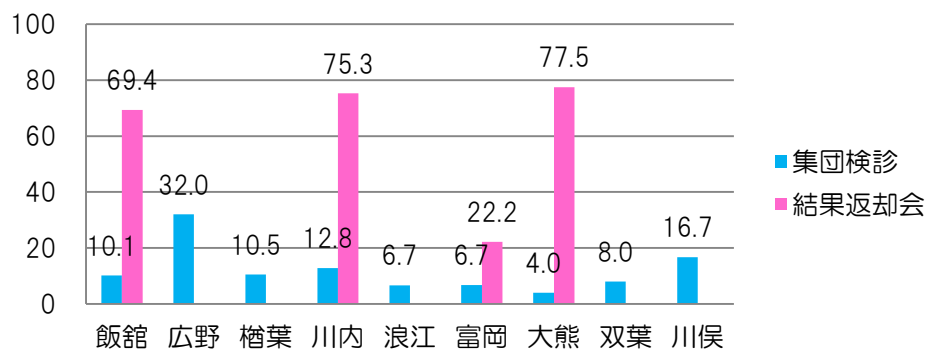
※結果返却会：7月は川内村、11月は川内村75.3%、富岡町22.2%の平均値、12、1月は大熊町。

### 月別相談件数割合



富岡町の結果返却会は、ほとんどの方を自治体保健師が対応し、対応しきれなかった方をよろずに紹介という形態で行ったため、他の返却会に比べ値が低くなっています。

### 町村別相談件数割合



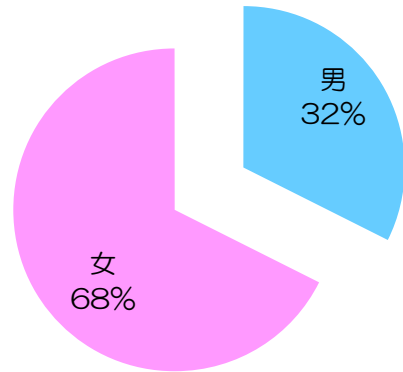


# 相談内訳

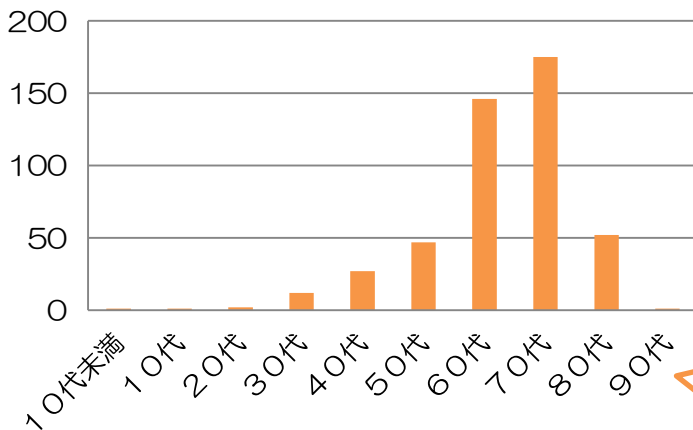
相談者の男女比、年代別数、相談内容内訳は以下の通りです。(未記入及び未回収分は含まず。)

## 1 男女比

相談される方の男女別人数は、男性164名、女性341名と、女性の方が男性の約倍となっています。



## 2 年代別相談者数



年代別としては、60代、70代がほとんどを占めています。理由としては国民健康保険、社会保険対象者の集団検診に併せた健康相談であることが挙げられます。今後は乳がん検診などと併せた実施により、若い世代の相談を受ける機会を増やしていきたいと考えています。

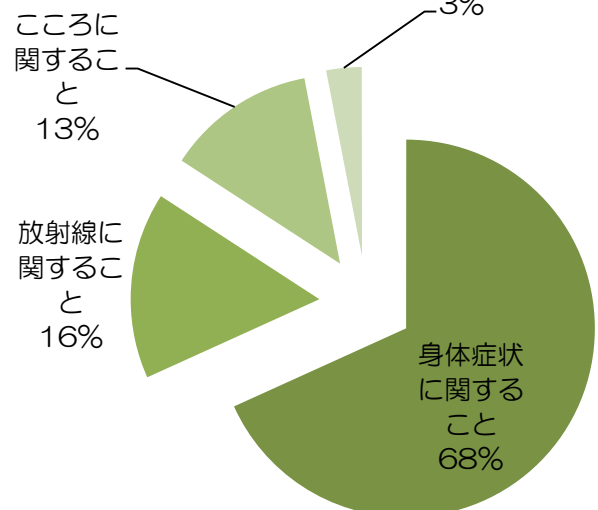
仮設住宅等に避難したことにより、これまでの生活（農作業等）を続けることができなくなり、体重増加や高脂血症などの生活習慣病が起きていることが原因のひとつに挙げられます。

相談内容の内訳は

- 身体症状に関すること539件
- 放射線に関すること126件
- こころに関すること101件
- その他25件

となっており、思ったより放射線に関する相談が少ないことがわかります（複数回答可）。

## 3 相談内容内訳



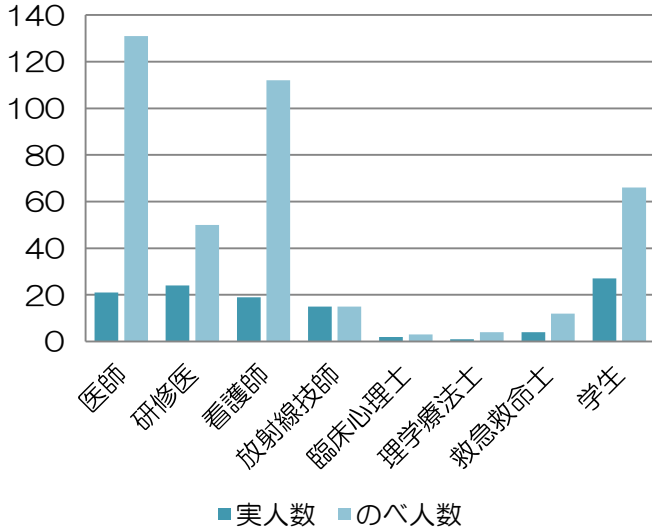
# 参加者



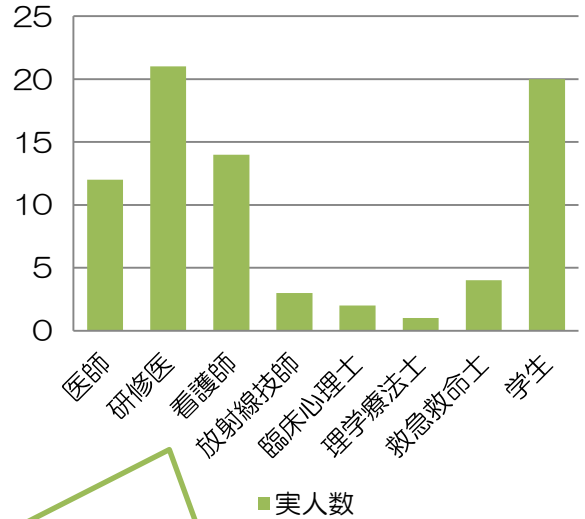
よろず健康相談事業に参加した、①②職種別グラフ、③出身地域別一覧は以下の通りです

多くの参加者が何度も足を運んで来てくれていることがわかります。

## ①職種別参加実人数とのべ人数



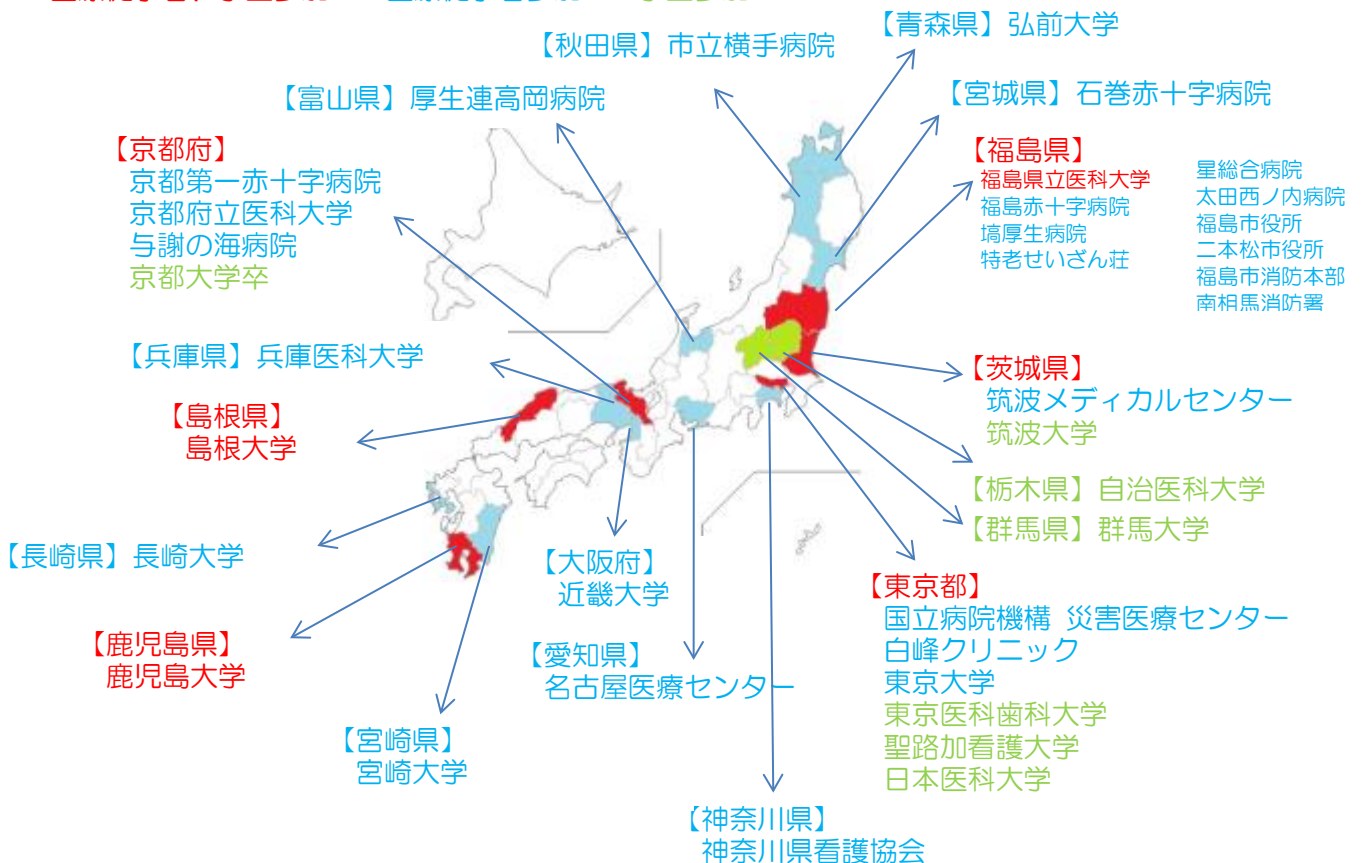
## ②事前研修参加実人数



77人の方が18回の事前研修と3回の福島災害医療セミナーで事前研修を受けました。

## ③出身地域別

■医療従事者、学生参加 ■医療従事者参加 ■学生参加



## 参加者の感想



よろず健康相談に参加してくださった方の感想から。  
特に県外の医療関係者・学生さんにとって、実際に被災されている方々と接する機会は、貴重な経験になったようです。

学生さん  
より

大学での実習では病棟が中心になるため、相談とはいえファーストタッチを自分でして、先生に引継ぎ、先生の対応を見学するという経験はとても貴重なもので、たくさんのことを学ぶことができた。事前学習や村への訪問など相談を受けるバックグラウンドとなるプログラムもあり、とても良かった。

研修医の  
先生より

災害復興期における、避難者の心理や医療ニーズについて現場ベースでの理解が深まりました。現場のニーズに応じて臨機応変に対応していく先生方の姿を見て勉強になりました。実際の悩みは人それぞれで、放射線の影響の受け止め方も人それぞれですが、よろず相談所で何か相談したいという思いを持った人たちは、その相談を通して少しでも心理的負担を軽くしたいという願望を持っている（その願望に自覚的または非自覚的に）訳で、そうした願望が生じた背景を推測しながらアプローチしていくことが重要だと実感しました。

医師より

被爆に対しては住民の思いを十分汲み取るような仕組みがなく、決まった範囲でしか行政がサポートしていないという印象を受けました。原発を受け入れた町に住んでいることは自己責任なのかもしれませんが、今回の事故は人災であることは明らかであり、この点については無制限なケアの必要性を感じました。その意味で今回のよろず相談事業は効率的とはいいがたいが、そういう小さな声をくみ上げるのには必要だと思います。避難をきっかけに対人関係がうまく行かなくなってしまい、懐疑的になってしまったケースを担当しました。このように震災ではなく原発事故により生活だけでなく人格までもが影響を受けていることへの対応も重要だと思います。特にこのケースではちゃんとした説明を出来ていない行政に対する不満や不信が強いのでこれまで町役場の人にも相談もせずにおり、このよろず相談で初めて思いを口にしたことでした。ですので行政だけではなく、今回のように別のソースからの受け皿も意義があると思います。

## まとめ



被災地のために何かしたい、と考えている全国の学生、医療関係者のみなさんにとって、被災者の方々と直接接するよろず健康相談は大変貴重な機会となったようです。その上、放射線に関する知識も学ぶことができます。少人数クラスで聞きたいことは何でも聞くこと

ができる、放射線に関するここまで詳しい学びができる場所は日本でも数少ないでしょう。参加者のみなさまからは大変満足だという声をいただいています。

来年度も多くの方々に福島に来ていただき現状を知ってもらうこと、また放射線医療の知識を身につけた医療者の育成の2つの柱で、よろず健康相談を続けていきたいと考えています。

★詳細は HP <http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/ecdm/index.html> をご覧ください。

【お問合せ先】 [ecdm@fmu.ac.jp](mailto:ecdm@fmu.ac.jp) 福島県立医科大学 災害医療総合学習センター